

台湾におけるユニバーサルデザインと園芸療法のこれから

Thinking about horticultural therapy from universal design in Taiwan

浅野 房世

東京農業大学 教授

はじめに

筆者が「すべての人が癒される緑空間」に興味をもちユニバーサルデザイン（以下 UD）の研究を始めたのが 1990 初頭である（浅野ら,1996）。その中で UD プログラムの一つとして園芸療法に出会い、普及の必要性を感じて教鞭をとり始めた。その後四半世紀が過ぎて、障害者参画は当たり前となり 2020 年にはパラリンピックも日本で開催される。このような流れから筆者は、先進国では「UD 思想が浸透し、都市インフラはもちろんのこと、社会環境の UD 化の進展」を信じていた。

さて、2017 年 11 月に知人の紹介で、「台湾ユニバーサルデザイン遊具国際会議」で基調講演を依頼された。「情報が古い」と聴衆者から非難されることを承知で、「日本における UD 発展の経緯」を話した。説明したのは 25 年前の昭和記念公園の遊具やセンサーガーデンのデザインプロセスである。これらは健常児と障害児が一緒に遊ぶ機会をつくり、その行動観察によって、遊具のデザインをしたものと、数百人の障害者から花と緑へのニーズを集積させていったものである（三宅ら,2006）。

講演後、障害児の保護者から「台湾でも実施したい」と質問を受け、また遊具メーカーからは「利用者ニーズを反映させたオリジナル遊具は安全か」などの具体的な話が多く出た。台湾は、まだ UD 萌芽期なのだと知った。

さて、筆者の大学では毎年、中国本土や台湾からの留学生が学年に 1 人はいた。2017~2018 年にかけても研究室には台湾から園芸療法研究のために院生が留学していた。彼女いわく、台湾の UD は一部の市民の声が反映されることが多い。インフラが「すべての人にやさしい」とは言えない。また園芸療法に関しても園芸福祉と園芸療法が混在しており、教育や仕事の境界が明確ではない、との意見だった。

◆台湾の高齢・障害者 社会状況

台湾の面積は、日本の九州ほどの大きさに約 2300 万人が住み、人口集積地として台北市があげられる。

本稿は、日本園芸療法学会 10 周年に際し、理事の方に依頼したものである。

台北市の人口密度は 9181 人/km²で、土地価格は東京都心部より高額である（台北市政府主計處, 2019）。

高齢化は 14%から 20%に移行する期間が、日本は 11 年だったことに比して、台湾は 8 年であり、日本よりも高齢社会への移行が急激である。高齢者対策は、日本のような介護保険制度はすすんでいない。現在、急ピッチで介護保険制度を整えようとしているようだが、高齢化スピードのほうが急激である。

そのうえ儒教的思想からか、「子は親をケアする」と考えている。しかし共働きの現役世代が、認知症両親のケアはできず、都心部の住宅事情も相まって、比較的廉価なマレーシア人やベトナム人など第三国からの出稼ぎ労働者に親のケアを委ねている（大野, 2010）。介護者が対象者への意思の疎通が出来ない上に、労働条件も様々で、ケアするほうもされるほうにも不満が生まれる。

台湾の身体障害者は 56 万人、知的障害者 10 万人、精神障害者 14 万人であり、すべての障害者の人口比は 5%である。これは日本や他諸外国とも同じぐらいである。本著のために、調べたところ、障害者社会参加は途上にあり就労支援や障害者の権利保障などはまだまだの状態である。

また精神福祉面は、日本と同様に職場ストレスによる脳血管疾患、心臓疾患も近年増加傾向にある（脳・心疾患・労働安全衛生総合研究所,2017）。

◆大安森林公園について

このような台湾現状が背景となり、筆者の 2017 年の講演（UD 参加型公園設計）に興味を持った財団があった。財団法人大安森林公園之友基金会（以下 基金会）である（ランドスケープデザイン,2018）。基金会は、「これからの台湾市民の癒しのために、花と緑の癒しの公園を UD として整備すべきである」と管轄である台北市政府公務局に働きかけた。何回かの筆者らの説明の結果、台北市中心街にある大安森林公園の一面に、台北市民のための癒しの庭の設計がスタートすることになった。

大安森林公園は、人口集積地域の真ん中にある日本で言う地区公園（面積 26ha）の大きさである。立地環境は日比谷公園に似ており、働く人の昼食時の憩いの場、高層マンション居住者の早朝の散策、

メイドが認知症高齢者の車椅子を押す散歩，太極拳の練習，また台湾大学に近いために夜も学生のディスカッション空間，などなどに利用されている。

一方，そのような活動的な利用とは真逆に，真夜中には，眠られないのであろうか，住民が一人ベンチにポツンと頭を下げながら腰掛ける様子も見かけた。夜明け前の薄暗い公園には，考え事をしながら黙々とあるく熟年男性もいた。

大安森林公園は，多様な利用者が必要とする 24 時間公園である。



計画敷地(入口から見る)



多くの認知症高齢者がメイドに伴われて公園にくるが・・・

◆大安森林公園 UD ガーデンの概要

24 時間の利用実態調査，医師・看護・ケア当事者との面談の結果をまとめ，以下のコンセプトを設定して，デザイン設計を進めた。

「多様な年代の利用に対応するユニバーサルデザイン」「五感を使って自然を感じられる」「時間の経過(四季に移ろい)を感じられ」「都市型公園にしかないデザイン(夜間活用)」「一人になれる空間」「交流空間」「高齢者の認知症予防とリハビリ」

空間は，2500 m²ほどの小さな場所だが，視覚障害者が一人でも歩ける安全性と夜間でも女性が安心して利用できる防犯対策や死角を造らないことに留意

してすすめた。

- ① 動線が復そうしないように入口と出口は別にして，入口には写真スポットを設けた(台湾人は日本人以上に写真好きである)。
- ② サインは体感サインを心がけ，足ざわりや音による誘導を試みた。
- ③ 花壇は，台湾の生産業者と相談しながら，五感の庭を整備し，小さな潜る緑のトンネルをトトロトンネルとして計画した(台湾人は「隣のトトロ」が大好きである)。
- ④ 静かに一人でいれるあずまを整備。これは先のユニバーサルデザイン講演会で，自閉症児の保護者から「子どもが落ち着く空間が欲しい」と請われたためである。
- ⑤ 光りの反射，すなわちプリズムが楽しめる回廊を設置した。明るい場所と暗い場所を作り，利用者の気分によって空間を選択できるようにした。



計画鳥瞰図

◆園芸療法と園芸福祉

前述のように，台湾は超高齢社会に突入するにも関わらず，社会資本整備はもとより高齢者福祉施策が進展しているとは言えない。そこで台湾留学生と相談して，台湾の高齢者サービスの一助となることを目指し，本公園で「花と緑の福祉学講座」を実施することとした。

講座修了者はセンサリーガーデンにおいて福祉ボランティアとなり，実践してもらうことが前提の講座である。講座は 40 時間であるが，無料で受講できる。無料ではあるが，40 時間の受講に対して 40 時間のペイバックを課すこととした。ペイバックとは，アメリカのマスターガーデナー制度で活用されていたシステムである(浅野ら，1999)。無料で勉強できる代わりに同等の時間を社会にボランティアとして還元することである。ペイバックのボランティア内容は，講座内容の実践である。

授業は、花と緑の福祉学、園芸療法と園芸福祉、死生学、ボランティア学、センサリーツアー（五感に感じる案内手法）、車いすのサポート、視覚障害者のサポート、認知症高齢者にサポートなど多岐にわたる。

公園における癒しのプログラムを実践できる人材が増加すれば、車いすの高齢者を居宅から公園に連れ出して癒しの時間を与えることや、認知症高齢者に花と緑によって五感に刺激を与えることもできる。教育を受けたボランティアたちが、高齢者のみならず、支援を必要とする台湾の人たちに、この空間を生活の中の癒し拠点として活用してくれることを期待している。

「認知症高齢者の焦燥感とは何か」「花と緑の癒しに言語は必要ない」「ケアする人とケアされる人の両者を緑は癒す」などをボランティアは実践を通して体得していくだろう。大安森林公園センサリーガーデンとボランティアが「植物を介在させた癒し」を伝えてゆくことが、民間レベルができる弱者支援の重要なことであり、このようなことがやがて伝播してゆき社会が豊かになる近道ではないかと考える。

これらの活動は、日本でいうところの園芸福祉（松尾, 2013）と言われるかもしれない。しかし園芸療法を学び、決められた時間を実践指導者の下で訓練をうけ、対象者を評価できる人材が、福祉行為を実施することは園芸療法であると考えられる。

日本では20年以上経過したにもかかわらず園芸療法文化の発展は遅々として進まない。認知症施設の入居者への園芸療法や入院患者への園芸療法は少しずつ定着して園芸療法士が常勤勤務する施設があるものの、まだまだである。

筆者は、園芸療法士がもっと地域に踏み込出して、シームレスなサービスを提供するべきではないかと思っている。医療や福祉施設での園芸療法と同時に、地域の公園や公民館、そして個人の庭へと癒しの必要な人のところに向く園芸療法のケアが必要である。日本の社会がこれからの高齢者への園芸療法に求めているのは、在宅の生活を緑の癒しで包み込むこのようなケアではないかと思う。

台北市でのこの試みが、新しい地域ケアの萌芽になることを期待している。

引用文献

- 浅野房世, 亀山始, 三宅祥介: 人にやさしい公園づくり. 鹿島出版会. 1996. 東京
- 浅野房世, 三宅祥介: 安らぎと緑の公園づくり. 鹿島出版会. 1999. 東京.
- 大野 俊. 2010. 九州大学アジア総合政策センター 紀要: 5: 69-83
- 脳・心疾患・労働安全衛生総合研究所, 2019
https://www.jniosh.johas.go.jp/groups/overwork/ronbun_a.html
- 三宅祥介, 浅野房世, 森愛: ユニバーサルデザインの遊具の設置事業のプロセスと今後の可能性. 2006. 福祉文化研究: 15: 37-46.
- 台北市政府主計處. 2019. <https://dbas.gov.taipei>.
- ランドスケープデザイン: 大安森林公園, 2018. 丸茂出版. 東京.
- 松尾英輔. 2013. 園芸福祉—園芸の療法的活用とリクリエーション的活用. 農業および園芸 88(1): 32-42.